

文理科学科通信

京都府立福知山高等学校

本物の躍動感 現場の臨場感

文理科学科宿泊研修(2)

文理科学科通信4号に引き続き、7月21(火)から23日(木)に実施した文理科学科宿泊研修についてお知らせします。

大阪地方裁判所

社会で実際に発生している様々な事象、その最前線にふれる現場として、大阪地方裁判所を見学しました。裁判所職員の方に、最初に裁判員裁判に対応した法廷に御案内いただき、裁判所



の概要について御説明いただきました。

また、裁判を傍聴する際には、携帯電話はマナーモードか電源を切ること、写真撮影・録音等の禁止のほかに、傍聴席では必ず着席することなど必要な事項についてもお話いただきました。

また、実際の裁判傍聴の内容を、裁判所の周辺で話題にすることは、その関係者の方に対する配慮の意味も込めて控えてほしいといった社会的なマナーの重要性も教えていただきました。

その後、グループに分かれて刑事裁判の傍聴を行いました。法廷前には、裁判の内容、罪名等が記されていますが、どれも目をそむけたいような内容でした。傍聴した実際の裁判は、被告の入退廷、証人の宣誓、

被告の関係者とみられる傍聴人の様子など、テレビドラマで見る整然とした雰囲気とは違った独特の緊張感に包まれていました。

新大阪ユースホステル



海外からの宿泊者の多い、ユースホステルでは、宿泊者ロビーや談話コーナーで自然と交流が始まりました。カードゲームやコンピュータ

を通して、旅行者が学習されている日本語教材などが、話題となりました。日本語・英語が次々飛び交い、時を忘れて国際交流が深まりました。

大阪科学技術館



ここは、日本の最先端科学技術を担う企業の展示が見られ、新素材、環境、情報、エネルギーなどについて学ぶことができる施設です。展示見学のほか、竹中工務店大阪本店課長 鍋谷めぐみ氏、つづいて同社技術研究所主任研究員 三坂 育正氏より、御講義いただきました。

講義では、ヒートアイランド現象や、その対策として、ビルなど建築物の屋上緑化

について、建築作品例をもとに、御紹介いただきました。また、建築と環境は互いにその対極にあるのではなく、建築は、自然のシステムと人のシステムの間にあり、環境に配慮されながら、これからも進化し続けていくことなどを学ぶことができました。

大阪大学

総合学術博物館
日本人初のノーベル賞受賞者である、湯川秀樹博士の研究業績、大阪大学の歴史の源流から大阪の産業の発展に関する展示など、多くの資料が収集展示されています。



博物館の方より解説をいただきながら、学問の系譜とその時代の潮流について、より深く感じることができました。

文理科学科宿泊研修は、学校を離れ、現地ならではの多彩な直接体験や、社会の最前線の現場の空気に直接触れるなど、「本物への体感」を通して、多くの刺激を受けました。このことは、今後のみらい学の研究に向けて、視野の拡大を図り、各分野のより深い部分を知る貴重な機会となりました。

研修の記録から

(六人部中学校出身)

こんなに、技術が進んでいるとは驚きだった。ヒートアイランドは僕たち高校生の一つの行動でも防げることがわかった。将来、大人になって日本を支えていく自分たち一人一人が、意識をして、考えなければならぬ問題だと思ふ。

(中略)

この3日間、勉強はもちろん、みんなの普段の姿が見られて本当によかった。元々、仲が良かった1・5も、より一層仲良くなれたと思ふ。